

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成24年度採択課題）

中間評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
24-9	舗装路面の動的たわみ計測装置の開発と健全度評価	東京農業大学 教授 竹内 康	B

<研究の概要>

本研究では、路床の泥濘化や地下埋設物の老朽化・劣化等に伴う舗装路面下の空洞等の構造的欠陥を迅速かつ的確に把握し、舗装の健全度評価を行うことができる走行式の非破壊検査装置である“動的たわみ測定装置”を開発し、実舗装において健全度評価を行うものである。

<中間評価結果>

研究は順調に進捗しており、一般道での計測の準備も進んでいる。これらのことから現行のとおり推進することが妥当と評価する。

<今後の研究計画・方法への指摘事項>

1. 舗装の健全度について、FWDとMWDを具体的にどう組み合わせで調査し、評価するのか等について、実際の現場活用を想定した成果の取りまとめを進めていただきたい。
2. 地方自治体管理の道路では、舗装データが不十分なケース、断面が頻繁に変化するケース等が想定され、こうしたケースを想定したMWDの適用性・信頼性（劣化箇所を見落とす可能性・確率）について検討していただきたい。
3. 損傷や地下埋設物、路面下空洞等と計測結果の関連について検討していただきたい。
4. 特許出願等知的所有権についても、早期の対応を検討していただきたい。